

弥生土器作りに挑戦する生徒ら



## 弥生の技法体感

青谷高生 自作土器を野焼き

青谷高（鳥取市青谷町青谷）の2年生7人が11日、同校グラウンドで弥生土器作りを体験した。自分で成形したつぼを当時の技法で野焼きし、弥生人の技術や生活に思いをはせた。

地域と連携した学校設定科目「青谷学」で国史跡青谷上寺地遺跡について学ぶ授業の一環。鳥取県埋蔵文化財センターの協力を得て、2018年から発掘体験などをしており、土器作りは19年度から2年目。県立むぎぼんだ史跡公園の浜本利幸係長が講師を務めた。生徒は弥生土器特有のつぼを粘土で生成しており、この日は野焼き窯での野焼きに挑戦。「覆い焼き式野焼き」で古代米の稲わらやまきを重ねた上に土器を置いた。粘土で全体を覆い固めて火入れし、400℃700度の温度で12〜24時間かけて焼き上げた。

山村崇人さん（16）は「大変な作業の連続で、昔の人がいかに我慢強かったのかが分かった」と感心していた。12月上旬には自作の土器を使って、収穫した古代米の米炊きを体験する予定。

（松本妙子）